

株 主 の 皆 様 へ

 **TOYO GOSEI**

第58期 中間報告書

(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

 **東洋合成工業株式会社**

# Message to Our Stakeholders

株主の皆様へ

## ■ ご挨拶

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと拝察申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社の第58期中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

当社は、昭和29年創業以来半世紀、「技術開発力こそすべての出発点」を企業理念に、独創的な視点を大切にしながら研究開発ならびに生産技術の向上に努めてまいりました。この蓄積された技術やノウハウを活用して、市場ニーズに迅速かつ的確に対応し、事業分野および事業規模を着実に拡大させてまいりました。

また、当社はコーポレート・ガバナンスの強化を経営上の重点課題と認識し、これまでも取締役任期1年、社外取締役2名任用、監査役4名体制などコーポレート・ガバナンス強化に取り組んでまいりました。そして平成19年6月には「コンプライアンス委員会」の設置や執行役員制度の導入をし、さらなる強化を図りました。

今後もコーポレート・ガバナンス充実に努めるとも

に、環境保全にも配慮し、事業規模を拡大させてまいり所存であります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ■ 当中間期の経営成績

売上高	7,107百万円	(前年同期比 +10.1%)
営業利益	417百万円	(前年同期比 △5.7%)
経常利益	367百万円	(前年同期比 △16.8%)
中間純利益	197百万円	(前年同期比 △29.9%)

当中間期の売上高は、全部門で前年実績を上回り、7,107百万円と前年同期比10.1%の増収となりました。

事業部門別では、主力の感光性材料事業部門が、LCDパネルの在庫調整から回復し、前年同期比8.5%の増収となりました。化成品事業部門では、BRICs諸国の経済成長に伴う香料材料需要の拡大により前年同期比15.5%の増収となり、売上増加に大きく貢献いたしました。

損益面では、生産性向上や経費削減に努めたものの、原油高による原材料費の上昇や販管費の増加により、営業利益、経常利益、中間純利益ともに前年同期と比較し減益となりました。

当下半年につきましては、エレクトロニクス業界は、競争激化による価格下落が進むものの、年末商戦を控え液晶テレビを中心としたデジタル家電の需要は堅調に推移するものと見込まれております。また、溶剤リサイクル市場は環境問題やコスト削減ニーズを背景に、香料市場はBRICs諸国の経済成長を背景に着実に拡大するものと見込まれております。

こうした中、当社といたしましては市場の変化に対応すべく、生産工程の見直しなど原価低減に努め、積極的な営業活動および生産能力の向上を進めるとともに、新規製品の開発に取り組んでまいります。

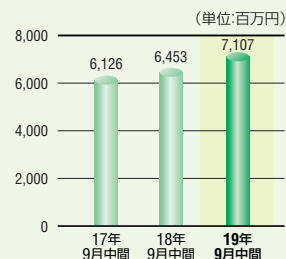
なお、株主の皆様に対する中間配当金は、業績、配当性向、内部留保等を総合的に勘案し、中間配当として1株あたり7円50銭とさせていただきます。

平成19年12月

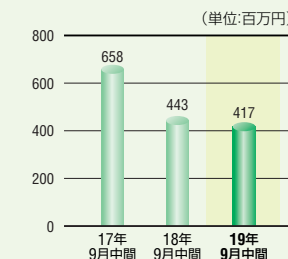


代表取締役社長 木村正輝

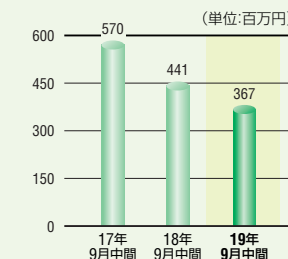
売上高



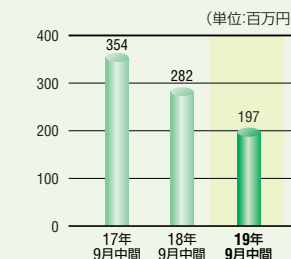
営業利益



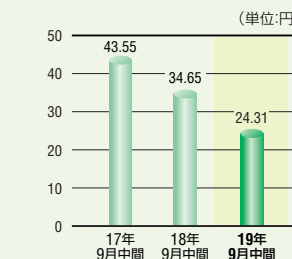
経常利益



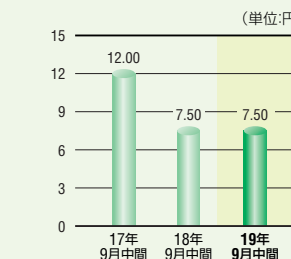
中間純利益



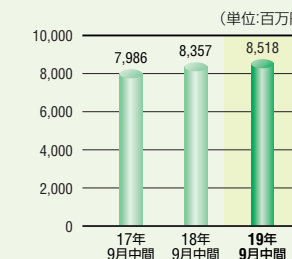
1株あたり中間純利益



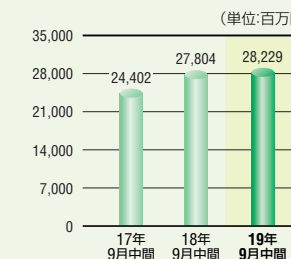
1株あたり中間配当金



純資産



総資産



## 各事業部門のご紹介

### ■ 感光性材料事業

Photosensitive  
Materials Business

#### ● 感光材 ●



感光材は、半導体や液晶パネルの製造工程で使用される回路パターンを形成する材料であるフォトレジストの原材料になります（フォトレジストは、感光材と溶剤等から作られます）。当社では、“高性能かつ高品質”の感光材製品を量産しており、国内だけでなく海外のフォトレジストメーカーからも高い評価をいただいています。

液晶テレビやパソコン、携帯電話、ゲーム機などのさらなる市場拡大を見据えて2006年4月に千葉第二工場を建設いたしました。また、次世代型の感光材も大学と共同で研究開発を行っており、生産能力増強と研究開発に注力しています。

#### ● エネルギー ●



フォトレジスト用現像液TMAH、電気二重層キャパシタ用の電解液および今後各種用途への展開が期待されるイオン液体の製造販売を行っています。電気二重層キャパシタは、ハイブリッド自動車、鉄道車両の補助電源などの蓄電に利用し、二酸化炭素排出削減や燃費向上に寄与することが期待されています。

2004年10月に当社は他社に先駆けて実機製造設備を完成いたしました。当社製品は高純度を特徴としており、お客様に品質と量産設備を評価していただいた結果、2006年4月より複数の電気二重層キャパシタメーカーへ納入を開始いたしました。

### ■ 化成品事業

Chemicals Business

#### ● 香料材料 ●



食品香料（フレーバー）、化粧品香料（フレグランス）などを調合する際に使う素材（単品香料）を、国内外の香料会社に販売しています。単品香料は、香料会社で調合されて、様々な食品、化粧品、シャンプー、石鹸などの香りの素として使われています。

当社の単品香料は、香料として一番重要な“匂い”が安定していることを特徴としており、国内では食品香料向けが多く、海外では化粧品香料向けに多く販売されています。また近年では、BRICs諸国が牽引する世界経済の成長により販売が拡大しています。

#### ● グリーンケミカル ●



半導体関連向けの工業用溶剤の生産並びに国内の医薬品、印刷会社などから排出される、廃溶剤を引き取り、当社のコア技術である蒸留・精製技術を活かした、リサイクル事業を推進しています。2006年4月

VOC排出規制が施行され2010年までにVOC排出30%削減(2000年度比)を求められ各事業者がその対策にせまられています。当社は、装置メーカーと協力し、VOC排出対策の提案を行っています。グリーンケミカル事業では、地球温暖化、大気・水質汚染問題解決に貢献し、地球にやさしい事業を展開しています。

### ■ ロジスティック事業

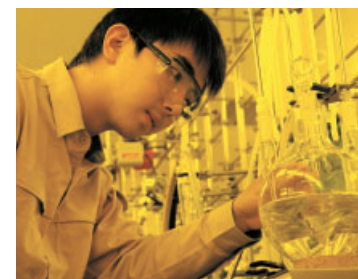
Logistics Business



ロジスティック事業を扱う高浜油槽所は、大手石油化学メーカーや商社の液体化学品を船で受け入れ一時保管し、タンクローリーで関東各地のユーザー様へ配送しています。また、輸入の際によるコンタミ品の蒸留精製

や、ドラムを1本ごととコンピューターで管理できる危険物立体自動倉庫、自動計量のできる屋内ドラム充填所を保有し、高付加価値のサービスを提供しています。また、高稼働が続く高浜油槽所では、2007年1月にタンクを4基増設し、さらなるサービスの充実に努めてまいります。

### ■ 新規開発事業



ナノテクノロジー部門では、国内研究機関（東京理科大学、産業総合研究所）と協力し、国内初のUVナノインプリント（UV-NIL）専用樹脂を開発しました。ナノインプリント（NIL）は、他の微細加工技術では困難な大面積加工が可能な点が最大の特長です。適用できる加工寸法・面積の範囲が非常に広いこと、幅広い用途への応用が期待されます。

バイオ部門では、水溶性の感光性樹脂BIOSURFINE®-AWPを開発しました。安全性に優れた水溶性ポリマーに感光基を直接結合させた新しいタイプの感光材で、バイオチップの作製の際に必要な機材の親水化コーティングや、高い生体物質親和性を利用した酵素固定化などの用途が期待されます。

### ■ 香料材料事業部Q&A



執行役員香料材料事業部長 萩原勇一

Q 香料材料事業部の業務内容を教えてください。

A 食品香料（フレーバー）、化粧品香料（フレグランス）などを調合する際に使う素材（単品香料）として、エステル類、酸類、アルデヒド類、アルコール類、ケトン類などを製造し、国内外の香料会社に販売しています。また、特殊溶剤、保湿・抗菌剤用途向けなどにジオール類を製造販売しています。

Q 製品は何に使われていますか？

A 当社の単品香料は世界中の香料会社で使われていますが、国内では食品香料（フレーバー）向けが多く、海外では化粧品香料（フレグランス）向けが多く販売されています。

単品香料は香料会社で調合されて、様々な食品、化粧品、シャンプー、石鹸などの香りの素として使われています。

Q ロッテルダム倉庫の稼働状況を教えてください。

A 2005年にロッテルダム倉庫を開設したことによりヨーロッパ各地へのタイムリーなデリバリーが可能となり、販売が急速に伸びました。小口の注文も大幅に増えたため、現在ではほぼ毎日デリバリーを行っている状況です。

Q 新しい香料の開発は行っていますか？

A 香料は人が直接身に付けたり食べたりするものなので、新規化合物は安全性の面で採用が難しくなっています。当社では天然に存在する安全性の高い単品香料にターゲットを定め、長年蓄積してきた合成技術を駆使して環境にやさしく安価に製造する技術の開発を進めています。

Q 今後の見通しについて教えてください。

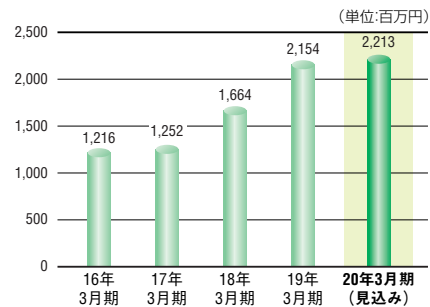
A 日本では人口減少が大きな問題となっていますが、世界に目を向ければアジアを中心に人口が増え続けており、その経済発展に伴って食品、化粧品の需要が大きく伸び始めました。当社はいち早く世界中の大手香料会社へ販路を切り開いていたので、販売量が大幅に増えています。今後はタイムリーに増設を行い世界中で増大する需要に応えていく所存です。

## 設備投資と減価償却費について

当社は、LCD市場のマーケット拡大への対応、半導体用途でのエキシマレーザー用感光材への対応、また、電気二重層キャパシタやリチウムイオン2次電池に使用されるイオン液体・電解液の需要拡大に対応するためにここ数年間大型設備投資を実施してまいりました。この結果、減価償却費が大幅に増加いたしました。減価償却費の増加が減益の要因の一つとなり、また、その設備資金を借入金で賄ったため有利子負債も増加いたしました。

この設備投資の成果は着実にあらわれてきており、売上高は5期連続増収となり過去最高を更新しております。また、利益面では減益の要因でありました減価償却費はここ数年大きく増加しておりましたが、平成20年3月期においては前年とほぼ同額となる見込みであります。今後は増収効果を増益につなげるため、一層の生産性向上に努めてまいります。さらに収益性向上やキャッシュ・フロー改善に努め、有利子負債の削減、財務体質の強化を図ってまいります。

### 減価償却費の推移



## ■ 中間貸借対照表 (要旨)

(百万円未満切捨表示)

科目	期別		
	当中間期 平成19年9月30日現在	前中間期 平成18年9月30日現在	前期 平成19年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	11,029	9,981	10,347
固定資産	17,199	17,823	17,403
有形固定資産	16,078	16,665	16,257
無形固定資産	172	187	177
投資その他の資産	948	969	968
資産合計	28,229	27,804	27,751
<b>負債の部</b>			
流動負債	12,261	12,729	12,882
固定負債	7,449	6,717	6,440
負債合計	19,711	19,447	19,322
<b>純資産の部</b>			
資本金	1,618	1,618	1,618
資本剰余金	1,541	1,541	1,541
利益剰余金	5,255	5,033	5,118
自己株式	△ 0	△ 0	△ 0
その他有価証券評価差額金	103	164	150
純資産合計	8,518	8,357	8,428
負債純資産合計	28,229	27,804	27,751

## ■ 中間損益計算書 (要旨)

(百万円未満切捨表示)

科目	期別		
	当中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	前中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	前期 自平成18年4月1日 至平成19年3月31日
売上高	7,107	6,453	13,642
① 売上原価	5,661	5,095	10,820
売上総利益	1,446	1,358	2,821
② 販売費及び一般管理費	1,028	914	1,936
営業利益	417	443	885
③ 営業外収益	72	106	137
④ 営業外費用	123	108	226
経常利益	367	441	795
特別利益	0	—	9
⑤ 特別損失	47	4	149
税引前中間(当期)純利益	319	436	655
法人税、住民税及び事業税	128	160	306
法人税等調整額	△ 6	△ 5	△ 78
中間(当期)純利益	197	282	428

## ポイント

### ① 売上原価

原油高による原材料費の上昇や減価償却費など固定費が高水準にあることから前年同期と比較して増加いたしました。なお、売上総利益は増収効果により増加しております。

### ② 販売費及び一般管理費

機能強化を目的に営業部門・管理部門の人員を増加いたしましたので前年同期と比較して増加いたしました。

### ③ 営業外収益

前年同期と同様に研究開発費に対する受取開発補助金を計上いたしました。前年同期と比較してその金額が減少いたしましたので営業外収益は減少いたしました。

### ④ 営業外費用

借入金の増加にともない支払利息が増加いたしましたので、営業外費用は増加いたしました。

### ⑤ 特別損失

固定資産除却損を計上したため、前年同期と比較して特別損失は増加いたしました。

# Financial Statements

## 財務諸表

### ■ 中間株主資本等変動計算書 (要旨) (当中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

(百万円未満切捨表示)

	株主資本				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	
平成19年3月31日残高	1,618	1,541	5,118	8,278	8,428
中間会計期間中の変動額					
別途積立金の積立て	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	△ 61	△ 61	△ 61
中間純利益	—	—	197	197	197
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額 (純額)					△ 47
中間会計期間中の変動額合計	—	—	136	136	89
平成19年9月30日残高	1,618	1,541	5,255	8,415	8,518

### ■ 中間キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(百万円未満切捨表示)

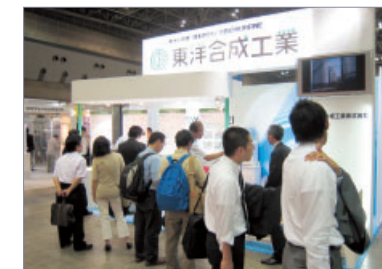
科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	自平成18年4月1日 至平成19年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,092	△ 17	1,560
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,524	△ 1,811	△ 3,168
財務活動によるキャッシュ・フロー		959	1,555	1,511
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		1,495	793	968

# Topics

## 第6回国際バイオEXPO 出展 (2007.06)

2007年6月20日から22日まで開催された「第6回国際バイオEXPO」に新規事業開発部バイオグループが出展いたしました。展示会では、バイオチップ・バイオセンサーまた細胞アレイなどへの応用が期待されている水溶性感光性樹脂BIOSURFINE®-AWPを紹介し、実験キットの販売、サンプル品の受注を行いました。

当社製品に対する関心の高さから、昨年と比較し1.5倍のお客様がブースへご来場いただきました。



## 市川工場にタンク6基増設 (2007.08)



グリーンケミカル事業の主力である溶剤リサイクルは、原油価格高騰による溶剤コストの圧縮ニーズ、VOC排出規制など環境関連法規強化などにより、市場の拡大が見込まれています。また、香料材料事業は、BRICsが牽引する世界経済の成長や当社製品の品質の高さが評価され、国内・海外ともに販売量が拡大しています。

両事業が生産を行う市川工場(千葉県市川市)では、今後のさらなる溶剤リサイクル市場、香料市場の拡大に対応するため、工場内にタンク6基を増設いたしました。

## 個人投資家向け説明会を名古屋にて開催 (2007.09)

2007年9月12日に証券広報センター主催の個人投資家向け説明会を名古屋で開催いたしました。当社代表取締役社長 木村正輝が、当社の現状ならびに今後の見通しについて約1時間説明し、多くの方からご質問をいただきました。今後も、個人投資家向け説明会などIR活動を積極的に実施してまいります。



# Stock Information

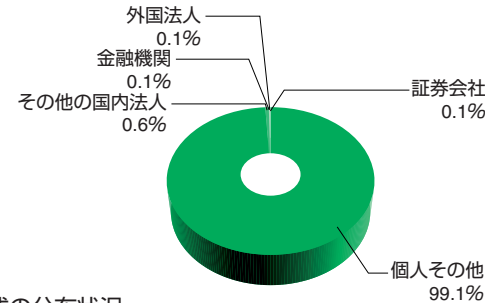
発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	8,143,390株
株主数	10,211名

## 大株主

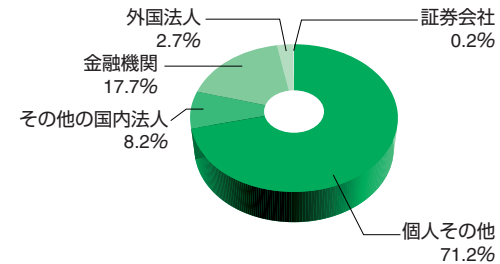
株主名	持株数(株)	出資比率(%)
木村正輝	1,718,870	21.1
木村有仁	344,800	4.2
木村愛理	343,000	4.2
千葉銀行	298,100	3.6
東京都民銀行	298,000	3.6
日本スタートラスト信託銀行	279,900	3.4
片岡文子	224,500	2.7
木村源四郎	210,100	2.5
学校法人早稲田大学	200,000	2.4
昭和エンジニアリング	170,000	2.0

## 株式の状況 (平成19年9月30日現在)

### 株主の分布状況



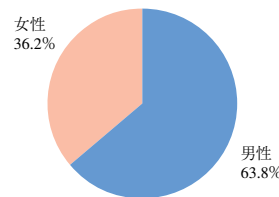
### 株式の分布状況



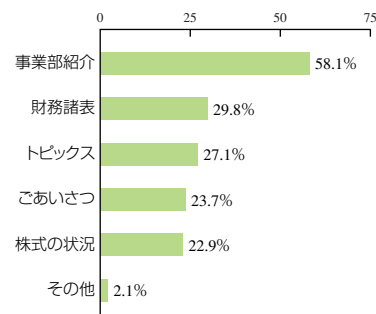
平成19年3月末の株主の皆様を対象としたアンケートの結果をご報告いたします。

(アンケート送付数 9,113名 / 回答数 3,380名 / 回収率 37%)

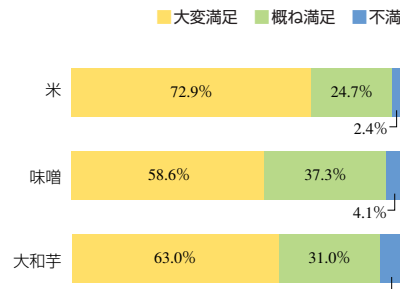
### アンケート回答者の属性



### 第57期株主通信に興味を持った記事



### 株主優待品の評価



# Corporate Profile

## 会社の概要 (平成19年9月30日現在)

商号	東洋合成工業株式会社
設立	昭和29年9月27日
資本金	1,618,888,703円
従業員数	354名

- 事業内容
1. 有機工業薬品・有機溶剤等の製造並びに販売
  2. 画像形成用の感光性材料の製造並びに販売
  3. 電子表示機器の材料等の開発、製造並びに販売
  4. 電池材料ならびに電気二重層材料等の研究開発、製造並びに販売
  5. 酵素の固定並びに細胞の培養をするための感光性樹脂の研究開発、製造並びに販売
  6. 倉庫業（液体化学品の保管管理）
  7. 貨物運送取扱業

## 事業所

東京営業所  
東京都中央区八丁堀4丁目13番1号  
高浜油槽所  
千葉県市川市高浜町7番地  
感光材研究所  
千葉県印旛郡印旛村若萩4丁目2番地1  
市川工場  
千葉県市川市上妙典1603番地  
千葉工場  
千葉県香取郡東庄町宮野台1番51号  
ヨーロッパ事務所  
Teleport Towers Kingsfordweg 151  
1043 GR Amsterdam The Netherlands

## 役員

代表取締役社長	木村正輝
専務取締役	春田雅彦
取締役	菊地英夫
	渡辺宏一
	三代川雅人
	木村有仁
	越後谷桂之介
監査役	大伊藤洋
	青木久昂
	柴田弘進
執行役員	宇田山智邦
	小島隆彦
	萩原勇一
	佐藤一

# Information

## 株主優待

毎年3月31日・9月30日現在において、株主名簿に記載のある100株以上の株式を所有されている株主様に下記のご優待をご用意しております。



株数	100株以上
優待品	2,000円相当の千葉県特産品

平成19年9月末株主様へは、千葉県の誇るブランド米である千葉県香取郡多古町産コシヒカリ5kgとさつまいものセットを、11月中旬～11月下旬にかけて贈呈いたしました。

## お知らせ

### アンケートにご協力ください

ご協力いただいた方のうち抽選で100名様にQUOカード1,000円分を1月下旬に送付させていただきます。  
※平成20年1月11日(金)当社着にて締め切らせていただきます。  
※当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。  
※回答欄の下部に必ず株主番号及びお名前・会社名をご記入願います。



※アンケートご記入後、同封のプライバシー保護シールを宛名面の下段に貼って投函してください。  
※個人情報保護に配慮し、ご記入いただいた個人情報は当社のIR活動以外に活用することはありません。

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬
剰余金の配当の基準日	毎年3月31日
定時株主総会基準日	中間配当を実施するときは9月30日 毎年3月31日
単元株式数	※その他必要がある場合は、予め公告いたします。 100株
公告方法	電子公告により行います。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵便物送付先及び連絡先)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
単元未満株式の買取請求	単元未満株式の買取りは上記の株主名簿管理人の事務取扱場所及び取次所でお取扱いいたしております。



IRに関する情報をご覧いただけます。

<http://www.toyogosei.co.jp/>

# 東洋合成工業株式会社

〒272-0012 千葉県市川市上妙典1603番地  
TEL047-327-8080 FAX047-327-8055  
E-mail : ir@toyogosei.co.jp



再生紙を使用しています。